



君の内なる

「大いなる自己」を

歓迎する



学 長

大西昭男

ご入学おめでとう。

こうして、わが関西大学の一人となられた諸君の一人ひとりに、関西大学を代表して、心から祝福・歓迎の意を表したい。

あたかもよし、平成元年。やがて振り返ってみて、諸君が、輝かしい生涯に大きく一步を踏み出した初めの年であったということになるだろう。大学生と呼ばれるものになった日のことを、諸君は生涯忘れることはないだろう。ご両親をはじめとして、周囲の人たちの君を見る目が、突然に変わる。友人と言葉を交わしたり、知人に挨拶している自分の声に、われ知らず、自信のようなものが加わっていることに気付く。

諸君のその自信をこそ歓迎したい。自己過信であつてもいい。過信もまた青春の特権だ。諸君の中には、私が初めに「わが関西大学の一人となられた」と言つた時に、いや自分が関西大学の一部分になったのではない、関西大学が自分の一部分になったのだ、とひそかにつぶやいていた人がいるかも知れない。その通りである。諸君の内なる「大いなる自己」は、はかり知れない質量をもった大きな存在なのだ。「力は山を抜き、気は世を蓋う」と言えるほどのエネルギーを秘めているのだ。その「気」が未だ発動していないだけのことなのだ。その未発動の「気」をこそ歓迎したい。

抜山の力を持ち、蓋世の勇を持つ大才も、あの入学試験のためには小心翼翼として誤り無からんことを期さねばならなかった。試験する側も、試験される側も、互いに不本意なことであつた。しかし、これからは違う。今日この日からは、大きな志を高くかかげて突き進むことができる。机にかがみこんでいた背を真直ぐ伸ばして、眼を高く遠く放つて、大きく問うことができる。諸君はこれから、友に、師に、そして書物に向かって、怖めず臆せず、問いかけることができる。「松のことは松に問え。竹のことは竹に問え」と芭蕉翁も言われた。事々物々に諸君は問いを発すべきである。「一日の長」あるを以て先生と呼ばれる立場の私たちも、諸君の問いに答えを返すことはできないかも知れない。一問に対しては必ず一答が用意されているわけではない。答えのありえない問いもありうる。問いに問いを重ねて、飽くなく追求して行くこと、それが学問なのである。問いを見つけ出し、問いをつきつめて行く習慣をこの学生時代に身につけてほしい。こんなに自由に考えることのできる時期は、おそらく諸君の生涯に二度とやっつては来ない。この時期に培った思考の習慣が諸君の生涯の宝となる。

先頃、文化勲章受章の栄に輝かれた本学の名誉教授、末永雅雄博士は、お小さい頃、お母上から「家の内の財は尽きるとも、身の内に積んだ財は尽きない」とと学問の道へと励まされて、刻苦勉励して日本の考古学の最高峰を極められた。諸君の進もうとする道は必ずしも「学問」の道とは限らない。しかし、学び且つ問うことによつてこの四年間に諸君が体得する思考の方法は、やがて諸君が生涯かけて打ち立てるべき「生き方」の原型となつてくれるだろう。方法論一般というような重宝なものはない。一人ひとりが自らつかみ取つて行くべき、その人独自の方法があるのみだ。そして、その人独自の「生き方」があるのみだ。

諸君の生き方へと展開して行くべき諸君それぞれの方法は、教室や研究室でだけ会得できるものではない。書物との、友との、師との出会いからこそつかみ取られるものなのだ。

今日のこの記念すべき日に、どうか諸君の心のバルブをひねって、すばらしい出会いへと大きく開け放つてもらいたい。

諸君の胸いっぱい、咲き誇る花の香とともに、わが関西大学の何よりの宝である「自由」の空気を吸ってほしい。この自由な空気の中で、諸君の胸の内の「大いなる自己」を大きく羽搏かせてもらいたい。



明治二十四年

(一八九一年)

五月、滋賀県大

津市で来日中の

ロシア皇太子

を、警備の任に

あたつていた巡

査が斬りつける

という事件が発

生じた▼事件後、政府は大岡口

シアの報復を恐れ、犯人を極刑

に処すこと等の方策を決定し

た。ところが当時の刑法によれ

ば、謀殺未遂は最高無期の刑に

処せられるべき罪であつたた

め、政府は時の大審院長児島

謙や担当裁判官に対し、大逆罪

を適用して犯人を死刑に処すこ

とを強く求めた▼しかし、児島

惟謙は大審院長といえども事件

担当の裁判官の裁判には干渉し

得ないとしてこれをしりぞけ、

担当裁判官に対しては政府権力

から独立して裁判をなすべきこ

とを説き、結局、犯人は謀殺未

遂罪により無期懲役に処せられ

たのであつた▼これが世に有名

な大津事件であるが、この判決

に対しロシアからは何の抗議ら

しいものもなく、かえって、ヨ

ーロッパ先進国のなかには、日

本の裁判官を称賛するものもあ

つたといわれている▼さて、所

謂リクルト事件は、N.T.T.前

会長が逮捕され事態の一層の進

展をみた。捜査がさらに「巨悪

の本丸」に及ぶかどうかは、日

本国民が固唾をのんで見守つて

いるだけでなく、「経済大国日本

の民主主義の成熟度を試みる試

金石」として、世界が注目して

いるともいわれる▼新入生を歓

迎すべき本号のこの欄で、疑獄

事件に触れなければならないの

は残念である。また、大津事件

を単純に司法権独立擁護の美事

として称賛するのは危険である

(Y・U)

大学



関西大学

「大学」89年版発行

広報委員会が、今年も新入生のための「大学」八十九年版を四月一日発行し、入学式当日、新入生諸君に配布する。

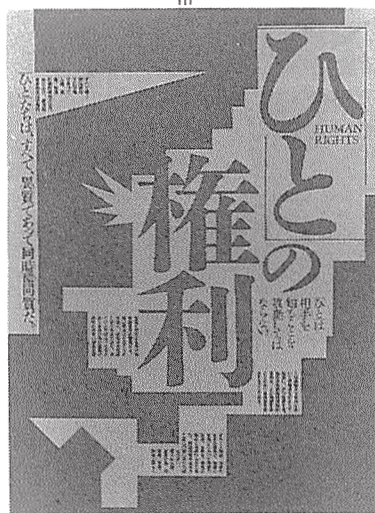
「大学」は、新入生諸君が初めて関する大学の学問や生活に、早くから親しんでいただくことを願って、一九七三年以来、毎年発行されている。内容は時代や社会情勢の影響を受け変化する部分もあるが、大学の存在意義、その真価については一貫して不変

意義ある学生生活のために

「大学」は、新入生諸君が初めて関する大学の学問や生活に、早くから親しんでいただくことを願って、一九七三年以来、毎年発行されている。内容は時代や社会情勢の影響を受け変化する部分もあるが、大学の存在意義、その真価については一貫して不変

「人権問題と大学」と「ひと」の権利

「問題」との出会い



人は、高度生活や実験動物時代、他の生物の権利や人間としての自己を過去のものと比べて、自覚的に認識するようになった。また、新しい経験や発見を通じて、新しい価値観や倫理観を形成し、社会の発展に貢献している。本書は、人権問題と大学の関係、そして「ひと」の権利について、最新の研究成果や事例を基に、わかりやすく解説している。

人権問題と大学

関西大学

新入生に贈る

人権講演会や公開座談会も

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

新入生に贈る

東西生活の文化史考

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

「ひと」の権利

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

悪徳商法の被害防衛講演会

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

春の出版上映

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

学生国際交流館・秀麗寮

厳粛に竣工式を挙行



完成した学生国際交流館・秀麗寮

「秀麗寮」は、本紙第七号で取り上げた、昭和五十八年創設以来、三十五名の計百五十名の学生が生活してきた。この建物は、国際交流の促進、学生生活の向上、そして国際社会への貢献を目的として建てられた。竣工式は厳粛に行われ、関係者から祝辞が述べられた。

希望者は出席を

奨学金制度の説明会が、四月四日(水)に開催された。希望者は、この機会を利用して、奨学金の申請方法や条件について詳しく説明を受けた。説明会では、奨学金の種類、申請書類の提出方法、そして返済方法などについて、担当教員が丁寧に説明した。

希望者は出席を

奨学金制度の説明会が、四月四日(水)に開催された。希望者は、この機会を利用して、奨学金の申請方法や条件について詳しく説明を受けた。説明会では、奨学金の種類、申請書類の提出方法、そして返済方法などについて、担当教員が丁寧に説明した。

ケガや事故が

もし起きたら... 学生教育研究災害傷害保険の重要性について説明された。この保険は、学生が学内外で発生したケガや事故による医療費や慰謝料などをカバーする。参加者は、保険の仕組みや申請方法について詳しく学んだ。

考古学等資料室を学内公開

本年度、四月四日(水)は、公開座談会を開催し、新入生と教員が対話した。また、四月五日(木)は、人権講演会を開催し、専門家の講演を聞いた。これらの活動を通じて、新入生は人権問題について学び、意識を高めることができた。

関西大学通信

THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

について

「歌舞伎の世界」 総合企画 四月三日(月)より五月十日(土)まで、一階展示室で開催された。この展示は、歌舞伎の歴史や文化について詳しく紹介し、多くの学生が興味を持って見学した。また、展示室には、歌舞伎の衣装や道具などの貴重な品が展示された。



► 編集後記 ◀